

とうさん ちやうらくじ
東山長樂寺は、大谷おほたにの北に隣る、はじめ開基は、伝教大師でんけうだいしにして、こゝも天台の別院なり。当山の致景は、唐土もろこしの長樂寺

に似たるとて斯号るとぞ。後は国阿上人こくあしやうにん住持して時宗とあらたむ。本尊は十一面觀音なり、伝教大師唐土より帰朝の折

から、海上において龍神形をあらはし、頭に觀音の像を戴て来る、大師礼拝渴仰し給ひければ、忽然としてかの尊像衣の袖に飛来し給へり、当寺の本尊是なり、台座の下したの蟠龍は大師の作にしてこの謂なり。「以上縁起に見えたり」辨財天の社あり、この神形も大師製作ありて鎮守とし給ふ。傍の庭造は相阿弥さうあみの作にして、世に名高き勝地なり。

夫当山は洛東第一の風景にて、鳳城九陌ほうじやうきうはくの大路小路おほちせうち、北は加茂二葉山かもふたば大宮森おほみやのもりより、南は鳩はとの峯みね淀よどの川瀬かはせをゆきかふ舟まで、眼中烏精の客とぞなる。

蓮華水は、隆寛律師りうくわんりつしといふ台宗の僧後には法然上人はふねんしやうにんの弟子となつて、専修念仏の行者となり、八十歳にして寂す、其時池水より青蓮華生ずとなり。

安徳帝あんとくていの御衣の幢は当寺の什宝なり。「御母建礼門院御節けんれいもんゐんをおろさせ給ふ時、御戒師には長樂寺ちやうらくじの印誓上人いんせいしやうにんなり、御布施として先帝の御直衣を給ふ」